

【学校教育目標】前向き Be positive! めざす生徒像 ・高い志をもち、課題解決に向けて主体的に学び、根拠をもとに正しく行動する生徒 ・人間性豊かで思いやりがあり、他者と協働的に取り組む生徒 ・一歩前に踏み出し、ねばり強く最後まで取り組む生徒		【使命・存在意義（ミッション）】 ・ふるさと甲奴を誇りに思い、確かな学力を身に付けさせるとともに、将来を見据え主体的に学び、根拠をもとに正しく判断し行動する生徒を育成する。 ・生徒会を中心に生徒の組織的な自主活動を進め、主体的に学び高め合う集団を育成する。 ・異文化間協働活動を推進し、グローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力を育成する。 ・甲奴中学校区コミュニティ・スクールとして小中一貫教育を推進し、保護者・地域とともに将来を担う生徒を育成する。		【甲奴中学校区小中一貫教育目標】 ふるさと甲奴を誇りに思い、自ら未来を切り拓いていく子供 【資質・能力】 「課題を発見し解決する力」 「コミュニケーション能力」 「乗り越える力」						
中間経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標（☆は取組指標、★は成果指標）		結果と分析	改善方策				
			指標評価	評価			指標評価	評価		
確かな学力（知）	学力の定着	・基礎・基本の確実な定着のための学習 ・ICTを活用した個別最適な学習と家庭学習の充実	★全国学力・学習状況調査及び三次市学力到達度検査において全学年の各教科平均値と全国平均値との差を昨年度より向上させる。 ☆一人一台端末を活用した授業や家庭学習を設定する。	a	B	c	B	○三次市学力到達度検査では、1学年は数学のみ全国平均値との差が昨年度より改善され、残りの教科では差が狭く結果となった。2学年では4教科において昨年度から向上させることができた。3学年では、比較可能な国語・数学いずれにおいても昨年度より向上させることができた。全体的に読解問題について多くの教科で課題が見られたことから、読解力の改善が必要である。 ○各教科の授業やフォローアップ学習において、タブレットを活用している。学校全体として家庭学習に課題が見られることから、タブレットをより活用した家庭学習の設定が必要であるが、現状は一部の教科にとどまっている。	○現在取り組んでいるヤングスポットを活用した視写や要約練習に加え、読解力を向上させるための取組を計画し朝のHR前等を利用し継続的に取り組ませていく。 ○基礎を定着させるための家庭学習におけるデジタルドリルの活用を増やしていく。また、ICT活用についての研修を設定したり、授業研究においてもICTの有効活用について視点を入れながら実施する。	
	活用力の向上 生徒が主体的に学ぶ授業	・「課題発見・解決学習」の質を高める授業の研究 ・実践的な英語力の向上 ・個別最適な学習による防災（河川）学習や総合的な学習の時間の推進 ・組織的・計画的な授業研究（一人一研究授業やペアによる授業研究）	★生徒アンケート「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』『やってみよう』とします。」を80%以上にする。 ★生徒アンケート「積極的に英語でコミュニケーションをとろうとしている。」を80%以上にする。 ☆総合的な学習の時間において個別最適な学びを実現する授業づくりを行う。 ☆学びの変革を意識した一人一研究を行う。授業交流週間で互いの授業を参観する。	b	a	a	a	○「授業では、解決しようとする課題について、『なぜだろう』『やってみよう』と思います。」の肯定的回答率は81.4%と中間時の70.3%から向上した。中間時の結果を踏まえ、各教科において生徒の意欲を引き出すような課題設定を意識しているとともに、前時とのつながりを意識した授業づくりを進めた成果と考えられる。 ○「積極的に英語でコミュニケーションをとろうとしている。」の肯定的回答率は84%であった。目標値はクリアしたが、中間時よりも肯定的回答率が減少し、特に上級生での減少が見られた。使用する表現の難易度が上がるにつれて表現することへの困難さが増加していることによるものと推測できる。 ○総合的な学習の時間における個別最適な学びへの取組は、各学年の防災学習において探究の段階でICTや文庫等、自分に適したものを選択すると共に、まとめ・発表においてもより効果的な方法の選択を行い個に応じた学習に取り組ませた。 ○授業研究の年間の計画に基づき、今年度は特に個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて個への手立ての工夫を意識した授業づくりを進めてきた。また、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりとして学校サポート事業とも関連させながら進めた。	○引き続き、生徒の意欲を引き出す課題設定や、単元ゴール像の明確化、それに向けた過程におけるスモールステップでの課題設定、前時とのつながりを意識した授業づくり等に全体で取り組む。 ○ALTやアメリカス市との交流をより充実させ、英語活用の場を増やしていく。アメリカス市との交流については、年に1・2回の交流だけでなく、学活等においてアメリカス市との交流の歴史等を学んだりする時間を設定するなど学校全体の取組をしていく。 ○学びの変革の深化の取組として、総合的な学習の時間だけでなく各教科において個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていく。 ○ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図るために、特にICT活用の研修を進めていく。	
豊かな心（徳）	生徒指導上の諸課題の解決	・個別最適な対応を見据えた積極的な生徒指導の推進 ・生徒が安心して過ごすことのできる環境整備 ・あいさつ（先言後礼・4秒礼）の励行・徹底 ・生活意識アンケート・デイリーライフ・班長会等から生徒実態を把握し、面談とSCによるカウンセリングの実施 ・関係機関との積極的な連携 ・道徳価値の自覚を深める授業	★年間30日以上欠席がある生徒（不登校生徒）数を昨年度比50%以下にする。 ☆生徒アンケート・デイリーライフ・面談から生徒実態を把握するとともに、SCによるカウンセリングを実施する。 ★生活アンケート「自分のよさは、まわりの人から認められていると思いますか」を90%以上にする。 ★i-checkで、いじめのサイン・対人ストレスを標準スコア50以上にする。 ★「道徳科」では、「『道徳の時間』の勉強はためになると思う。」を90%以上にする。	a	a	a	a	○1月末時点で不登校生徒が1名であった。昨年度不登校生徒3名に対して2名の減少となった。登校できていない家庭には担任がこまめに家庭訪問をしたり、保護者と密に連携を図った結果である。 ○2学期に各学年全生徒のSC面談を実施した。一人一人ストレスカウンセリングを行い、生徒の実態を各学年で共有できた。 ○「自分のよさは、まわりの人から認められていると思いますか」の肯定的回答の割合は81.5%であった。1学期と比べ7.4%減少した。生徒が出した成果や結果だけではなく、過程を認める取組が弱かった。また、良さが相手へ伝わっていないことも考えられる。 ○i-checkにおけるいじめのサイン・対人ストレスの標準スコアはそれぞれ54.2、53.0であった。生徒の小さな変化も職員間で情報共有したり、担任が毎日デイリーを通していじめのサインを見逃さないことやSCとの面談を実施したことが改善に至った。 ○「『道徳の時間』で考えたことを日常生活に生かそうとする」の肯定的回答は92.5%であった。1学期に比べ、7.3%増加した。いじめ防止委員会等で共有したクラスの実態や課題に応じた、内容項目を実施するなどの授業工夫を行った成果である。	○欠席が続く場合は、家庭訪問の実施やSCとの外部連携を行うことやケース会議を実施し取り組んでいく。 ○SC面談を計画し、カウンセリングを行っていく。 ○生徒会活動の取組みとして、友達の良さを言語化できる活動を取り入れたりと、教員側が結果だけでなく過程を褒める意識を高めていく。 ○担任だけではなく、学校全体でいじめのサインを見逃さない体制を構築していく。授業や学校生活での小さな気づきを共有したり、道徳の教材の中でいじめの題材の発問を学年で考えたりしていく。 ○いじめ防止委員会や特別支援教育で気になる生徒の情報共有を継続していく。	
	主体的な生徒会活動	・生徒が企画する生徒会・専門部の活動 ・いじめ0プロジェクトの継続・深化 ・思いやりの木の取組	★生徒アンケート「あなたは、生徒会活動に真剣に取り組みましたか」を90%以上にする。 ★ボランティア活動への参加率を70%以上にする。	a	A	a	A	○「あなたは、生徒会活動に真剣に取り組みましたか」の肯定的回答の割合は96.3%であった。1学期と比べ、3.7%減少したが、生徒会行事の取組としてスローガンの原案募集や各専門部で行う取組を生徒から意見を吸い上げたことが成果に繋がった。 ○生徒会主催の11月に行った花植えボランティアでは、86%の参加率だった。各クラスでの呼びかけを多く行った成果であると言える。	○引き続き、生徒会行事を充実させるため、生徒主体の取組を継続していく。 ○各クラスで生徒会が呼びかけを行うなど、今後も多くの生徒が参加したいと思えるような取組を進めていく。	
健やかな体（体）	生活習慣の定着と体力の向上を図る。	基本的な生活習慣の確立	・小学校との連携による三点固定（就寝時刻・起床時刻・家庭学習開始時刻）の取組 ・「ストップ9」の取組	★三点固定の取組を行い、それぞれの定着率を75%以上にする。 ★生活リズムチェックによる「ストップ9」の達成状況を70%以上にする。	a	A	a	A	○生活リズムチェック11月の三点固定の定着率は、75.6%で目標値に達することができた。 ○ストップ9コース選択（8・9・10）の全体での達成率は、75.0%だった。6月実施と比較すると、2.8%下がった結果であったが、ストップ8・9を選択した生徒が6名増加したことから、自分の選択したストップメディアコースに対してチャレンジしたいという意欲が高まった結果であった。	○生活リズムチェックについて、今後も目標設定を含めた事前保健指導を丁寧にを行い、適切な目標設定をさせる。結果については、集計を保健日より載せるだけでなく、保健指導にも活かしていきたい。 ○保健日より掲示物で生活リズムの大切さを呼びかける。 ○今後も毎月のストップ9デーにおいて、生徒会体育部で呼びかけを行い、取組の意識を高める。
	基礎体力の向上	・体力づくり計画による体育授業の実施 ・新体力テストの課題種目の取組	☆体力づくり計画による体育の授業の実施をする。 ★新体力テストで、県平均以上の種目を70%以上にする。	a	B	a	B	○継続して毎時間授業始めにランニング、筋トレ等の補強運動を実施することができている。また、単元によっては、遊びの要素を取り入れた運動を取り入れ、楽しく運動を行うことができた。また、昨年度から本校の課題である全身持久力の向上に向け、12月に校内駅伝大会を実施した。参加した生徒全員最後まで諦めず走り切ることができた。 ○新体力テストの達成率は、男子が66.6%、女子が83.3%だった。特に1年男子が8種目中3種目が県平均以下と非常に低かった。体育授業での活動量や補強運動の取組を改善する必要がある。	○補強運動は継続して行い、単元の中で体力向上につながる動き（球技であれば、キャッチボールやゲームの中で全身持久力を高める動き）を積極的に取り入れて行う。 ○校内駅伝大会を恒例行事として行い、生徒に目標をもちながら全身持久力の向上は図る。部活動では、3つの運動部活動が体力向上メニューを考案し、一緒に取り組む。	
信頼される学校	働き方改革を推進し、組織力を向上させ、「社会に開かれた教育課程」の実現を図る。	組織力の向上	・働き方改革の推進 ・組織的な学校運営の強化 ・不祥事防止研修の充実 ・小中一貫教育の発展 ・コミュニティ・スクールの推進	☆不祥事防止研修は、主任や主事・学年会で担当を決め、計画的に一人一回研修を担当する。 ★働き方改革について研修及び業務改善を行い、業績評価（自己申告）書の「働き方改革に関わる項目」において、3以上の評価をしている職員を100%にする。 ★小中一貫教育推進協議会を中心に小中で統一した取組を行い、保護者アンケートで「学校は地元の小学校と連携した教育を行っている」の肯定的評価を80パーセントにする。 ★生徒アンケートで「ふるさと甲奴に誇りをもっている」の肯定的評価を90%にする。	a	b	a	a	○不祥事防止研修は、これまで13回実施し、不祥事を自分事として捉えられるよう工夫した研修を行った。このような研修を継続して行い、さらに気を引き締めていきたい。 ○働き方改革については、93%の教員が業績評価で3以上の評価をしており、中間評価と変わらなかった。勤務外在校時間が長時間に及ぶ教員には個別に話をしながら、健康に留意させ業務を改善を進める必要がある。 ○第2回保護者アンケートの「学校は地元の小学校と連携した教育を行っている」の項目では、肯定的評価は100%であり、中間評価よりも増加している。学校通信で定期的に情報発信をしたり、コミュニティ・スクールの取組として小学校と連携した行事等を行ったことで保護者の理解に繋がっていると思われる。 ○生徒アンケートにて「ふるさと甲奴に誇りをもっている」に肯定的評価をした生徒は92.6%であり、前期と変わらず90%を超える高い値を示した。こうぬまるごと大運動会の実施や、総合的な学習の時間を防災を中心に地域について学ぶ機会を通して、生徒の「ふるさと甲奴」に対する思いが高まっていると考察される。	○不祥事防止研修は教職員全員が自分事として捉えられるよう、研修担当者が創意工夫を凝らして内容を工夫し、実施する。 ○勤務外在校時間の減少に向けて、todoリストの作成や、優先順位を基に効率よく業務を遂行するよう、研修等で呼びかける。また、職員の健康への関心を高めるため、学校保健医師との連携を図り取組を行いたい。 ○整理整頓や個人情報の厳重管理を行うよう、教職員で声を掛け合い、不祥事防止に努める。 ○コミュニティ・スクールの取組や、小中合同で取り組んだ成果を便りやHPで積極的に発信する。 ○総合的な学習の時間を中心に地域に根差した学習に取り組む、より深い知識を身に付けると共に、行事等に積極的に参画することで「ふるさと甲奴」への誇りをより育む。
			指標評価・評価	a・A	b・B	c・C	d・D	e・E		
基準	100%以上の達成度	80%以上100%未満の達成度	60%以上80%未満の達成度	40%以上60%未満の達成度	40%未満の達成度	目標を達成できなかった				
	十分に目標を達成できた	概ね目標を達成できた	ある程度目標を達成できた	あまり目標を達成できなかった						